様式第５号

令和４年度　学校関係者評価

学校番号	24	学校名	静岡県立伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校	校長名	早田 公子

学校教育目標

「良さが輝き 未来をひらく」

一人一人が確かな学びを積み重ね、仲間や地域とつながりながら、自分の良さを生きる力へと輝かせ夢や希望を持ち、自ら未来をひらく(「開く」「拓く」「啓く」)人を目指す。

（校訓「地域に学び 地域に活きる人」)「地域に学び、地域に活きる人」「地域に学び、地域に活きる人」

目標具現化の柱

（安全・安心）　命と健康を守り、人権を尊重し、一人一人を大切にする学校

（専門性）　確かな力を積み上げ、一人一人の良さを引き出す学校

（連　携）　保護者や地域、松崎高等学校と連携し、生徒の社会参加を目指す学校

（チーム学校）　教職員が主体的に学校づくりに参画する学校

評価	基　　準	評価	基　　準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	**関係者評価**	**意見など**
安全・安心	安全で安心に生活できる環境づくり	・役割や方法を全教職員が理解し、対応することができた。	A	A	・不審者情報など地域の実情を踏まえて対応していた。
		・生徒に防災、防犯の備えが身についた。	A	A	・適切。
		・生徒の意思や行動を大切にするなど人権を尊重した教職員の関わりができた。	A	A	・障害の有無に関わらず生徒を尊重し、やさしく教えることが大事。
		・互いを認め合う生徒同士の関わりが育った。	A	A	・適切。
	心身ともに健康に生活できる意識・習慣の確立	・生徒が積極的に運動に取り組んだ。	A	A	・適切。
		・生徒が保健指導で学んだことを日々の生活に活かした。	A	A	・適切。
専門性	**自立と社会参加を目指した教育(キャリア教育)の充実**	・生徒が自己の目標を理解し、各授業、実習に臨み、自己評価することができた。	A	A	・職場実習先の募集ができれば、地域や職域が広がるのではないか。 ・実習先へ生徒の情報提供は重要。
		・生徒が生活を振り返り、改善に取り組んだ。	A	A	・適切。
		・生徒が自他を大切にし、適切に自己表現するとともに教育活動に前向きに取り組んだ。	A	A	・家庭アンケートで生徒の成長に目を向けることは良い。
	学習指導要領の「育成を目指す資質・能力」に基づく一人一人の「生きる力」を育成する授業の充実	・教職員間で生徒の実態(アセスメント)や目標、各教科等の関連性を共通理解するとともに新学習指導要領に基づいたＰＤＣＡサイクルでの授業改善を行った。	A	A	・何のためにこの活動をやっているのか、何をどこまでやればよいのかなど生徒が分かるように対応しなければならない。

様式第５号

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見など
専門性	特別支援教育に関する専門性の向上	・教職員が研修等で学んだことを生徒の指導に活かすことができた。	A	A	・外部講師も教えるために生徒のことについて学んでいる。
連携	生徒の個性を生かし多様な人々との協働を促す「共生・共育」の充実	・松崎高校との交流及び共同学習で互いを理解、尊重し、自ら協働的な活動に参加する生徒を育んだ。	A	A	・高校との交流ができて良かった。 ・生徒の希望を活かしたい。
		・地域の人や関わる人々の共生・共育についての理解や意識が高まるよう教職員が目標を共有し連携、協働した。	A	A	・地域との交流やボランティア活動は地域の活力につながっている。 ・制限等が緩和される次年度はボッチャ等の交流も考えている。
	保護者、地域関係機関との行動連携の推進	・進路や地域福祉に関する保護者の意識が高まった。	B	B	・ＰＴＡももっと協力して様々な活動やつながりを拡げたかった。
		・本校の教育や生徒への理解が地域や関係機関に広がった。	A	A	・学校での生徒の活動や職員の取組を知ることができた。
	特別支援教育のセンター的機能の充実	・小・中学校等に機能が周知され、児童生徒、学校等への支援実績を積み重ねた。	A	A	・伊豆松崎分校へ安心して進学できるよう情報提供は重要。
チーム学校	働きがいのある学校にするための業務改善の推進	・教職員が役割を理解した協働、タイム・マネジメント、援助要請等を適切に行うことでの業務改善に取り組み、効果的な指導につながった。	B	B	・それぞれの職員が意識し、引き続き取組を進めてほしい。
	信頼される学校づくりのための意識向上	・教職員が分校の価値や所属意識を感じるとともに、不祥事、交通加害事故、交通違反ゼロに取り組んだ。	A	A	・適切。

その他の意見

・地域とのつながりはこれまでの積み重ねの上に成り立っているので大事にしたい。場面を増やしさらにつながっていきたい。
・卒業生の進路先の福祉事業所では、商品開発など新たな取組みをしている。（紹介）